

学びの杜通信

第41号 平成30年3月16日発行



進級・進学に向かう時期です！ **支えます**

～スタートカリキュラムの評価・改善していますか？～

本通信の第32号（平成29年4月）で、「スタートカリキュラムの適切な編成と実施」をお願いしてから、早くも一年が過ぎようとしています。4月に入学してきた1年生は、幼稚園や保育所等で培った資質・能力をどのように駆使して、小学校生活になじんでいったのでしょうか。

ある小学校では、スタートカリキュラムの取組として、入学当初の係活動の始め方を工夫しました。最初から「係ありき」ではなく、子どもたちが生活する中で、必要感に基づき自ら動き出す時期を待つという方法です。これは、幼稚園等で、みんなで気持ちよく生活するために、幼児が「自分たちで生活をつくる」という経験を生かしたものです。子どもたちの生活にアンテナを張っていると…、授業ごとに黒板の文字を消している担任を見て、「ぼくがやる」と言い出す子、「順番でやろうよ」と提案する子、さらには、昇降口でクラス全員の靴をそろえてから教室に向かう子等々、誰に言われたわけでもなく、自ら心と体が動き出す子どもの姿が見られたのだそうです。まさに主体的な「係活動」の始まりです。

このような「幼児期の経験が小学校での生活や学習に生きていた姿」を思い出しながら、今年度の「スタートカリキュラム」を加筆・修正して新年度を迎えてください。それが、スタートカリキュラムのマネジメントです。新1年生は、もうすぐやってきます！

※ スタートカリキュラム改善の参考資料として、接続期に大切にしたい指導法等をテーマ別にまとめたジョイントカリキュラム集「幼小連携推進者養成研修成果物」を御活用ください。

【問合せ先】 幼児教育部（Tel 028-665-7215）

→Click! <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/youji/joho/menu.htm>



平成30年度から基本研修の一部が変わります **育てます**

教育公務員特例法の一部改正を受け、県教育委員会では、今年度、栃木県教員育成指標を定め、研修計画を策定しました。それに伴い、当センターで行う基本研修の一部を以下のとおり改編しました。平成30年度から順次実施していきます。

○新任及び教職員歴2年目から5年目までに該当する者の研修

平成29年度までに採用された者

初任者研修	21日（校内研修300時間）（H29まで）
教職2年目研修	2日（H30まで）
教職5年目研修	2日（H33(2021)まで）

平成30年度以降に採用された者

初任者研修	16日（校内研修300時間）（H30から）
教職2年目研修	3日（H31から）
教職3年目研修（新設）	2日（H32(2020)から）
教職5年目研修	4日（H34(2022)から）

※養護教諭は日数の変更はありません

【概要】若手教職員を継続的に育成することができるよう、5年目までの研修日数の合計25日を維持しつつ各年次研修の日数配分を見直し、併せて教職3年目研修を新設しました。

○教職員歴10年目に該当する者の研修

平成29年度まで

中堅教諭等資質向上研修	10日（校内研修15日）
中堅養護教諭等資質向上研修	8日（校内研修5日）
中堅学校栄養職員等資質向上研修	8日（校内研修5日）

平成30年度から

中堅教諭等資質向上研修	7日（校内研修15日）
中堅養護教諭等資質向上研修	6日（校内研修5日）
中堅学校栄養職員等資質向上研修	6日（校内研修5日）

【概要】マネジメントの視点をより多く取り入れると同時に、センターでの研修と校内での実践的な研修との往還を強化する方向で内容の見直しを行い、センターでの研修日数を削減しました。

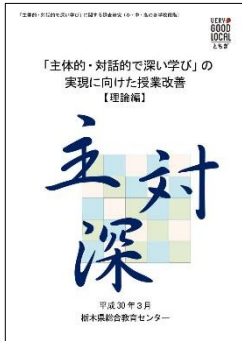
【問合せ先】 研修部（Tel 028-665-7202）

「できたて」です！～冊子・パンフレット紹介～ **広げます**

今年度の調査研究の成果をまとめた冊子・パンフレットができました。今回は、その中から3点を紹介します。これらは3月14日付けで各学校に発送いたしました。また、当センターWebサイトにも掲載しています。

①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善【理論編】

(小・中・高の各学校段階)



第1章では、「主体的・対話的で深い学び」が求められる背景や、授業改善の視点としての「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の捉え、また、それぞれの学びが実現できた子どもの姿の例をまとめています。第2章では、国語科、算数科・数学科、社会科・地理歴史科・公民科、理科、外国語活動・外国語科(英語)において、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」のそれぞれの学びが実現できた子どもの姿とその姿につながる教師の手立ての例を示しています。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の一助として、是非、御活用ください。

→Click! http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/cyosa/cyosakenkyu/h29_jyugyokaizen/

②タブレットを活用した実践事例〔小・中学校編〕〔高等学校編〕



児童生徒一人一人の確かな学力を育むために、タブレットを効果的に活用した授業実践事例を掲載した資料を作成しました。〔小・中学校編〕は6事例、〔高等学校編〕は4事例を掲載しています。また、その他の活用方法、よくあるトラブルとその対応例、タブレットを活用した授業づくりに関わる校内研修例も掲載しています。

授業の目標を達成するためのツールとして、自身の授業に積極的にタブレットを取り入れていきましょう。授業等でタブレットを使用していくためのヒントとして、是非、御活用ください。

→Click! http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/cyosa/cyosakenkyu/h29_ICT/

③望ましい人間関係を育むために〔小・中学校編〕〔高等学校編〕



「子どもたちのコミュニケーションに関するアンケート」の結果を基に作成したパンフレット(小・中学校編)、リーフレット(高等学校編)です。アンケートの集計結果や、発達の段階に応じた、望ましい人間関係を育むための具体的な手立て等を紹介しています。

日々の教育活動において、児童生徒の望ましい人間関係を育む上での一助として、是非、御活用ください。

→Click! http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/cyosa/cyosakenkyu/h29_ningenkankei/

【①～③の資料に関する問合せ先】 研究調査部 (Tel 028-665-7204)

Twitter はじめました



この度、栃木県総合教育センターでは、よりタイムリーな情報の発信を目指して、公式ツイッター「**→Click!** [栃木県総合教育センター@tochigi_skc](https://twitter.com/tochigi_skc)」を開設しました。これから、センターが主催する研修やイベントなどに関する様々な情報を発信していきます。「学びの杜通信」と併せて御覧いただければ幸いです。